

啓光だより

発行元
社会福祉法人啓光福祉会
東京都多摩市和田一七一一
〇四二 三七五 七三〇三

「啓光えがお」10年の歩み

地域と関わりあう居場所づくりを目指して



平成22年4月

「啓光えがお」スタート

「啓光えがお」の歴史は、多摩市社会福祉協議会で運営されていた「第二つくし作業所」が民間移譲された後、平成22年4月に当法人に事業譲渡されたことから始まります。当時、当法人にとって「なかまの樹」に次ぐ2つ目の通所施設の開設ということもあり、周回の準備を進めていま



平成22年「啓光えがお」初めての夏祭り

事業開始の翌々年には、同じく多摩市社会福祉協議会が運営する『重度心身障害者通所訓練事業「すぎなの友生活訓練所」』が移譲され、定員40名から55名の大所帯の通所事業所になりました。重症心身障害の方と知的障害の方が同じ空間で過ごすことに対してもご心配をいただきましたが、同じ屋根の下の仲間として早く親しくなっていたため2つの施設の利用者を混合して3つの作業グループに編成し、現在に至っています。

「すぎなの友」と合流

したが、利用者や保護者の皆様からすれば、運営母体が変わることに多大な不安を感じていたと思います。開設前に保護者会よりいただいた「質問状」に書かれた内容は、単なる質問ではなく「このように変わって欲しい」という保護者の皆様の切なる願いと受け止め、「利用しやすい施設にする」という方針のもと事業をスタートさせました。



平成24年 移譲後初のお花見

「これからの啓光えがお」

開所したその年から、夏祭りやクリスマス会、季節の行事や外出などの行事を組み込みながら「楽しめる場」作りを行ってきました。食事面でも仕出し弁当から給食に切り替えると共に、平成31年からは福祉センター内で調理し、温かい食事の提供ができるよう改善しました。そして、障害が重度であっても「働く場」であることを柱とし、市内の福祉事業



平成22年 給食の実現のために整備された「給食準備室」

所とネットワークを組んで「工賃アップ」の取り組みや地域のイベントでの出店等、地域との繋がりと社会貢献に力を注いで運営してきました。この10年を振り返ると、これまでたくさんの方の利用者を迎え入れ、そしてまた、それと同じくらいたくさんの方が退所していきました。退所の理由の大半が「親亡き後の生活の場」を見据えた入所施設への転居です。このような状況をこれ以上繰り返さないためにも住む場を確保し、住み慣れた地域で暮らし続けられるようにグループホームの整備に着手しました。今後、退所者が減ることによって利用者の高齢化・重度化が確実に進んでいきますので、それにも対応できる事業展開も必要になってきます。これまでの間、変えずに守り抜いて来たもの、時代やニーズによって変えてきたもの等いろいろありますが、利用者の方々が変わらぬ「えがお」で通えるよう、今後もその時々々のニーズに応じた柔軟な施設運営を目指していきます。



平成25年には「施設で働く」をテーマにテレビの取材をうけました

令和2年度 事業計画

今年度は、利用者一人ひとりの尊厳を重んじ、利用者の笑顔を引き出すことを目標に支援技術の向上を図ってまいります。更に、利用者の健康維持に向け、生活、栄養、運動、医療等の総合的な観点から、その人に適した支援を行ってまいります。

一方、昨年度引き起こした虐待行為を猛省し、権利擁護委員会の組織強化を図るとともに虐待防止の視点から、全事業所の支援業務を再検証し職員一丸となって再発防止に努めてまいります。

また、啓光えがおの保護者有志で組織する「将来を考える会」の皆様から、長年に亘って要望を受けていました親亡き後の生活を支援するための重度対応型のグループホーム34居室の整備に着手してまいります。

相談支援センター (計画相談)

・運営体制を週3日から5日に拡大、利用者サービスの充実を図ります。
・利用者の家庭環境や生活スタイルを勘案し、本人主体の支援プランを作成します。

啓光ホーム (グループホーム)

・利用者が健康で充実した生活が営めるよう、一人ひとりの生活スタイルを尊重し、生涯を見据えた支援を実施してまいります。
・利用者主体の日常生活が営めるよう、定期的に利用者会議を開催し、生活ルールや各種イベントの企画立案などを決め実施してまいります。

啓光えがお (生活介護)

・利用者の身体機能や健康維持について、生活支援員や看護師、栄養士や理学療法士など多職種間連携を図り支援してまいります。
・作業する場所と休憩する場所を分離し、生活介護支援に適した空間を整備してまいります。

なかまの樹 (重心通所)

・利用者が安心して一日を過ごせるよう、介護技術の更なる向上を図るとともに、利用者の社会参加を促進するため、外出機会を増やし多様な機関と交流を図ってまいります。
・災害時における利用者一人ひとりの状況に応じた災害時避難計画を検討してまいります。

啓光学園 (入所施設)

・利用者の高齢化や障害の重度化に備え、理学療法士と生活支援員の連携により健康的な日常生活の支援向上を図ってまいります。
・生活介護のプログラム見直しや、児童支援の充実、ボランティアの受け入れなど多様な人間関係の醸成を促進してまいります。

◇ 理事会・評議員会報告 ◇

<評議員交代可決> 新任 安宅理氏 今泉寛次氏
(任期：令和2年3月19日～3年6月定時評議員会終結時)
退任 飯島正義氏 川田賢司氏

<啓光相談支援センター運営規程改正可決> 開設日を週3日から5日に拡大します

<定款変更可決> 啓光学園ホール北側市道拡幅のため、敷地 27.93㎡を多摩市に寄付

<委託契約可決> 啓光ホーム新築工事実施設計業務委託契約 1,100万円



見えない危機に 対する支援

新型コロナウイルス感染症対策

2月、世間で新型コロナウイルス感染症に関する情報が飛び交う中、各事業所では行政から次々と届く通達を受けて外部との接触や外出の制限を行う等、緊張感を高めています。

その頃、啓光学園で暮らすOさんが「コロナを見に行く」と言っただけで、外向かうことがありました。このように利用者の疑問に対して、見えない感染症の実態と危険性を図解で説明し、また首相や都知事からのメッセージを掲示するなど、理解促進に力を入れることで命と生活を守るための支援に努めました。

緊急事態宣言下の各事業所では、利用者間の空間の確保、外出や通所及び短期利用の自粛要請などの対策を行いました。これには利用者ならびにご家族、関係者の皆様のご理解とご協力に大いに助けられました。皆様にとっても不安と戸惑いの渦中であつたはずですが、その中で、感染防止用品や、差し入れ、応援メッセージなど温かいご支援をたくさん頂きましたことに深く御礼申し上げます。



△各事業所のトピックス▽

啓光学園／児童・成人

新型コロナウイルス感染症に関する緊急事態宣言が政府から発令され、啓光学園の利用者の方々も不要・不急の外出を控えるなど、自粛生活を余儀なくされています。

それに伴い「新型コロナウイルス」や「世の中の動き」に関する情報が



利用者さんに「世の中の動き」を伝えるために使用したスライド

のストレス解消のために知恵を絞り、園内で楽しい時間を過ごせるように輪投げやポッチャ、映画鑑賞会や綿あめ等施設内で楽しめるイベントを行うなど工夫しています。

今後も楽しい時間を「共有」しな



手作り輪投げやポッチャなど、室内でできるレクを楽しみました



利用者一人ひとりにわかりやすく伝えるよう、スライド上映会や職員作成のポスターを掲示するなどして説明に力を入れて参りました。

それでも利用者の方々には、ストレスや先の見えない不安を持ちながら生活を送られており、職員は利用者

がら、どんなときにも常に利用者の方々の笑顔を沢山見られるよう取り組んでまいります。

啓光学園／生活介護

ストレッチやカラオケを継続し、健康維持の為に楽しく体を動かしています。

今年度は理学療法士が月に2回程度入り、より専門的な視点で助言を受けながら利用者さんの身体機能維持のサポートに取り組んでいます。

表現活動にも引き続き力を入れ、4月にアールブリュット作品展に共同作品を出展しました。

啓光ファームでは皆で協力し、夏野菜、さつまい芋の植え付けが完了しました。今季は、施設中庭にもミニトマトのソバージュ栽培の準備をしているところ です。

さくら作業所では、健康補助のサプリメントサンプルのチラシの封入作業にも慣れ、作業を通じて安定した生活を送られています。



啓光ファームの様子

なかまの樹

なかまの樹は新型コロナウイルス感染症対策として4月10日～5月8日の期間、自粛要請を行いました。

5月11日より希望者を募り、ソーシャルディスプレイを設けるよう1日2～3名程度の受け入れを行っています。

音楽活動では、対策の一環として西村講師のご自宅よりリモートでライブ配信を行うという新たな試みを行いました。

利用者の皆さんはスクリーンに映った西村講師の伴奏や音楽に合わ



西村講師のリモートライブ

せて楽器を鳴らしたり、歌を唄うなど積極的に参加される様子が見受けられました。また、メールを使って聴きたい曲をリクエストするなど普段とはまた違った音楽活動を楽しむことができ、新しい活動の発見につながりました。

啓光ホーム

啓光ホームでも新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、日中活動の場・就労先が休業や在宅勤務、通勤日が増えるなど生活が一変しました。

安全で健康的に過ごせるよう、手洗い・除菌・換気対策は当然ながら、毎日できるだけ散歩に出かけるよう努め、また各ホームでささやかなチョコレートパーティ、出前寿司ランチ等のイベントを行いながら「ステージグループホーム」の協力をお願いしました。

また利用者会議では、共同生活のルールの見直しや自粛疲れによるストレスを皆で共有する機会も設け、みんな同じ思いで頑張っていることの再確認を行いました。



近隣の公園に散歩に出かけ身体を動かしました

新人職員紹介

今年度、啓光福祉会で採用した職員を紹介いたします。新しい仲間を加え、新体制でさらなる支援の向上に努めたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

【新人職員から一言】



啓光福祉会
建設担当副参事
川田 賢司

皆さん初めまして 3月1日付で建設担当副参事として採用されました川田賢司と申します。主な担当業務は、来年8月開設を目指す重度対応型のグループホーム4棟の建設です。先輩者ですが、どうぞよろしくお願いいたします。



啓光えがお
生活支援係
工芸・デザイン班長
山川 順治

約3年前に非常勤として啓光えがおで働き始めましたが、4月より工芸・デザイン班の班長になりました。異業種での経験を活かし、チームのエンジン役を担っていきたいと思います。よろしくお願ひします。

〇ご支援ありがとうございます〇

各方面から様々なご支援をいただきました。厚く御礼申し上げます。

- 匿名の方より 50万円 (感染防止用品を購入)
- 一般社団法人東京馬主協会様より 不織布マスク 250枚
- 赤枝医院様より ゴム手袋 1000枚
- 啓光えがお関係者の方々より 手作りマスク多数・消毒用スプレー
- 株式会社コーヤシステムデザイン様より 不織布マスク 300枚



<啓光福祉会 事業所一覧>

- 啓光学園 (法人本部) / 知的障害者 (児) 入所施設
東京都多摩市和田 1717 Tel 042-375-7303
- なかまの樹 / 重症心身障害者通所施設
東京都多摩市和田 1730-3 Tel 042-356-4006
- 啓光えがお / 知的障害者通所施設
東京都多摩市南野 3-15-1 二幸産業・NSP 健幸福祉プラザ 1.2F Tel 042-376-5044
- 啓光ホーム / 知的障害者グループホーム
 - ①啓光ホーム石村 東京都多摩市ノ宮 4-27-12 Tel 042-339-7513
 - ②啓光ホームおおぐり 東京都多摩市ノ宮 4-39-15 Tel 042-319-3380
 - ③啓光ホームいずみ 東京都多摩市和田 1721-7 Tel 042-401-9331
- 啓光相談支援センター / 特定相談支援事業所
東京都多摩市南野 3-15-1 二幸産業・NSP 健幸福祉プラザ 1F Tel 042-376-5044

編集後記

新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から活動内容の制限が出てくる現在、法人内の活動も制限、自粛を余儀なくされています。こういった緊迫した情勢であるからこそ、感染症対策はしっかりしつつ「制限のある中でも、どれだけ楽しい時間を提供できるか？」と職員が創意工夫しています。

おもしろきこともなき世をおもしろく すみなしものは心なりけり (面白くない世の中を面白くするのは自分の心の在り方次第である)

高杉晋作・辞世の句 (諸説あり)
(広報編集委員会)